

岩手社保協ニュース

2020年11月25日(水) No11 (通刊110号)

〒020-0015

盛岡市本町通 2-1-36 浅沼ビル 6F

TEL・FAX 019-654-1669

E-mail i-shahokyo@aurora.ocn.ne.jp

11年連続 被災者医療費免除を継続 各地の切実な声、署名が力に

達増知事は16日の記者会見で、東日本大震災津波の被災者に対する医療費等の免除(12月末まで)について、2021年1月から3月末までは現行制度で、4月から12月末までは住民税非課税世帯に限定して継続すると発表しました。

県は10年連続で被災者の医療費(国保、後期高齢者医療制度)と介護保険利用料、障害者福祉サービス利用料の免除を実施。県議会では、医療費の免除を求める請願が採択されていました。

達増知事は、10年継続した医療費免除が「被災者が適切な医療を受ける機会を確保し、健康維持の増進に寄与した」と強調しました。

達増知事はまた、「医療費免除に関する沿岸12市町村との協議で、全市町村が足並みをそろえる場合の具体的な終期目安として、21年12月などの意見が多く寄せられたと説明。これを踏まえ、恒久的な住宅に移った被災者の状況を確認したうえで、終期の検討を進めたいと」語りました。

保険医協会が毎年行っている、被災地医療費窓口アンケートでも、免除の継続を求める切実な声が寄せられていました。そして、山田町や陸前高田市など各地で取り組まれた署名が自治体を動かして、11年連続で免除を継続させる力になりました。

11・11「介護・認知症なんでも無料電話相談」 コロナ禍で不安や悩みを抱え、相談相手もなく

全国で270件超、岩手では8件の相談が

いい介護の日の11月11日、岩手県社保協は「介護・認知症なんでも相談」を行いました。これは、中央社保協が全国を対象に「公益社団法人認知症の人と家族の会」と共同で毎年行っているもので、東京をキーステーションに計24都道府県で相談窓口を設けました。

全国の集計では270件を超える相談がありました。岩手県社保協では8件の相談を受けました。また、中央にも岩手県在住者からの相談が4件ありました。

NHK盛岡とIBCテレビが取材。昼と15時台で放映され、IBCはラジオでも紹介されました。



(上)さわやかクリニックの伊藤さん、(左)すみれケアプランセンターの小笠原さん。ほかに認知症の人と家族の会相談員の蛇石さんにご協力いただきました。

不安、相談相手いない、対応が分からない

岩手県社保協には、10時の相談開始とともに2件の電話がたて続けにありました。

高齢の母親と同居している男性は、「物とられ妄想があり近所から苦情を受けたが、包括支援センターに相談したら大丈夫といわれ、遠くの身内にも気のせい」と理解してもらえない状況を訴えました。相談員は、主治医への相談をすすめ、早期の診断と支援を受けることをアドバイスしました。

県外に住む女性からは、「コロナ禍で遠距離介護が思うようにできないことと、被害妄想への対応に苦慮している」という相談があり、相談員は妄想への対応の仕方や主治医との相談をすすめました。

一人暮らしの高齢女性は、「コロナで民生委員の訪問が2カ月なく、近所にも相談相手がいなかったため不安。認知症になりたくない。」と語りました。

介護保険制度が20年経つ今でも、相談先が分からない人や不安や悩みを相談する相手がいなくて、相談時間が1時間近くになるケースもありました。

新型コロナ感染が急速に拡大する中で、高齢者や家族の精神的、肉体的、経済的負担が重くなっています。菅政権は「自助」押し付けを止めて、コロナ対策を直ちに強化すべきです。

介護制度改悪やめて！ 署名次々と 「いい介護の日」昼宣伝

岩手県社保協と岩手の介護を良くする会は、11月11日、新型コロナ対策の強化や介護保険制度の抜本的改善を求める宣伝行動を行いました。

岩手県社保協の鈴木露通事務局長、岩手の介護を良くする会の鈴木幸子共同代表などがマイクを握り、署名への協力を訴えました。

鈴木氏らは、コロナ禍の下で、医療や介護の現場で抱えていた脆弱性が浮き彫りになったと指摘。菅政権は「自助」の押し付けを止め、介護に必要な財源を投入し、介護報酬の大幅引き上げ、介護労働者の賃金の抜本的改善、利用者負担の軽減を行うべきだと訴えました。30分間で55人が署名しました。

「菅首相はコロナ禍でも『まず自助』と言っている」と知った高齢の女性は「施設職員も介護する家族も大変だ。これ以上何をがんばれと言うのか」と怒りました。

宣伝行動には、めんこいテレビと赤旗の取材がありました。めんこいテレビは18時台で放送する予定でしたが、新型コロナのクラスターが発生したため、残念ながら放映されませんでした。



署名を訴える鈴木露通事務局長



子どもの医療費助成制度

岩手の会で親へのアンケートを踏まえて、「国の制度として中学卒業まで医療費無料制度の実現を」求める請願提出へ

今年8月から医療費の窓口負担は、中学生まで「現物給付」方式になりました

中学生の医療費窓口負担は、今年8月から未就学児や小学生と同じ「現物給付」方式になりました。

これまでは、医療機関の窓口で一旦医療費を支払い、申請により後日振り込まれる「償還払い」方式でしたが、手続きの煩雑さや窓口負担の大きいことが受診をためらわせる原因にもなっていました。

「子どもの医療費助成制度の拡充をもとめる岩手の会」(以下、岩手の会)は、長年にわたり子どもを持つ親の切実な声を集め、医療費助成制度の拡充を求めて運動を進めてきました。今回の「現物給付」の拡充要求もその一つです。

制度拡充に向けアンケートを実施

岩手の会では、さらなる拡充に向けた取り組みとして、アンケート調査を行い、26市町村に住む880人から回答を得ました。(表1) 回答した親が持つ、子どもの人数は合計1,269人で、未就学児と小学生が合わせて977人(77%)、中学生157人(12%)、高校生以上は135人(11%)でした。

制度の拡充を「知らない」が62%

中学生まで現物給付になったことを「知っていた」と回答した人は326人(38%)、「知らない」と回答した人は540人(62%)でした。未就学児や小学生の子を持つ親が知らないのは当然としても、中学生の子を持つ親でも知らないと答えた人も多く、周知の徹底が求められています。

窓口負担・所得制限「無くしてほしい」は76%

盛岡市や奥州市など15市町では医療費の窓口負担があります。負担額は「県基準と同じ」または「県基準の1/2」がほとんどです。(裏面)

所得制限のある自治体は花巻市や北上市など7市1町となっています。(裏面) ↑

アンケートで、窓口負担や所得制限を「無くしてほしい」と答えた人は649人(76%)でした。

自由記述欄には203人の方がびっしりと書き込んでいました。その多くが窓口負担や所得制限をなくしてほしいと訴えています。

例えば、他県や他市町村から盛岡市に転入してきた方は窓口負担があることに驚き、所得制限のある滝沢市の方は、ほんの少し所得が多だけで医療費助成の対象からはずれるのは不公平だと訴えています。

どこに住んでいても、お金の心配なく医療が受けられるために医療費助成制度の拡充を

二戸市と大槌町は今年8月から、釜石市は10月から医療費助成を高校生まで上げました。八幡平市は来年4月から高校生まで上げる予定です。

大船渡市は今年8月から所得制限をなくしました。

現在、25市町村が高校生までの医療費助成を行っています。そのうち15市町村は医療費が無料です。

また、中学生まで医療費無料を行っている宮古市など3市を加えると、医療費無料の自治体は18市町村になります。

岩手の会では、2015年12月と2017年10月に、医療制度の拡充を求める請願を行い2回とも採択されました。今度の12月議会に向けて「国の制度として中学卒業までの医療費無料制度にすること」と、「所得制限の撤廃、窓口負担の無料の実現」を求めて請願を提出します。

表1 住んでいる自治体

盛岡市	283人	滝沢市	166人	一関市	71人
北上市	54人	奥州市	37人	遠野市	36人
八幡平市	35人	宮古市	34人	花巻市	27人
大船渡市	19人	矢巾町	17人	陸前高田市	15人
岩手町	14人	紫波町	13人	雫石町	5人
金ヶ崎町	4人	九戸村	3人	一戸町	3人
久慈市	2人	西和賀町	2人	山田町	2人
二戸市	1人	住田町	1人	岩泉町	1人
野田村	1人				

市町村単独子ども医療費助成事業 (2020年10月1日時点)

【県基準】

対象者	就学前児童(ただし入院は小学校卒業まで)
所得制限	児童扶養手当(一部支給)の所得制限+80万円
受給者負担	1レセプトあたり入院5000円、入院外1500円(受給者が3歳未満、監護者が市町村民税非課税者である場合は受給者負担なし)

市町村名	所得制限	就学前		小学生				中学生			高校
		3歳未満	就学前	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
盛岡市	なし	無料		入院:2500円、外来:750円							対象外
宮古市	なし	無料									対象外
大船渡市	なし	無料									
奥州市	なし	無料		入院:5000円、入院外:一部負担金の1/2							
花巻市	有※1	無料		入院:2500円、入院外:750円							
北上市	有※2	無料	入院:2500円、入院外:750円								
久慈市	有※3	無料									対象外
遠野市	有※4	無料	入院:2500円 入院外:750	入院5000円、 入院外:一部負担金の1/2				入院:一部負担金の1/2 入院外:一部負担金の1/2			対象外
一関市	なし	無料									
陸前高田市	なし	無料									
釜石市	有※5	無料		入院:5000円、入院外:1500円							
二戸市	有※6	無料		入院:5000円、入院外:1500円							
八幡平市	なし	無料									対象外
滝沢市	有※7	無料	入院:2500円 外来:750	入院:5000円、入院外:1500円							対象外
雫石町	なし	無料									
葛巻町	なし	無料									
岩手町	なし	無料	入院:5000円、入院外:1500円								
紫波町	なし	無料	入院:2500円、入院外:750円							対象外	
矢巾町	なし	無料	入院:2500円、入院外:750円								
西和賀町	なし	無料									
金ヶ崎町	なし	無料									
平泉町	なし	無料									
住田町	なし	無料									
大槌町	なし	無料	入院:5000円、入院外:1500円								
山田町	なし	無料		入院:2500円、入院外:750円							
岩泉町	なし	無料	入院:5000円、入院外:1500円								対象外
田野畑村	なし	無料									
普代村	なし	無料									
軽米町	なし	無料									
洋野町	なし	無料									
野田村	なし	無料									
九戸村	なし	無料									
一戸町	有※8	無料	入院:5000円(月5日限度)、入院外:1レセプトあたり500円								

※1: 就学前児童は所得制限なし。※2: 県基準。※3: 3歳未満は所得制限なし。※4: 4歳に達する日の属する月の末日まで所得制限なし。※5: 就学前児童は所得制限なし。※6: 県基準。※7: 3歳に達する日の属する月の末日までの者は所得制限なし。※8: 就学前児童は所得制限なし。八幡平市は2021年4月より高校生まで助成の対象拡大予定。(県資料をもとに岩手社保協作成)